

令和5年度 立川市立立川第四中学校 授業改善推進プラン

学校の教育目標	○創造的な知性を磨く ○健やかな心と体をもつ ○自他を慈しみ共に生きる態度を養う
---------	--

生徒に育成を目指す資質・能力	教科や学年全体に共通する取組
○確かな学力を基盤に主体的に学び向上しようとする態度 ○課題に対して粘り強く取り組み、やり抜く力	・ルーブリック評価を活用した主体性の伸長 ・ICT機器を活用した効果的な対話型授業の構築 ・授業規律を確立し、学び合いの活動の活発化 ・家庭学習推進リーフレットの活用

教科	教科で育成を目指す資質・能力	資質・能力を育成するための具体的な取組（学習活動など）
国語	○「深い学び」の実現に向けて、自分の思いや考えを順序だてて相手に伝える力を養う。 ○漢字の知識の定着をはじめとして、言語や文学作品に関する知識の習得と共に語彙力の向上をねらう。	・学習場面において、自分の思考の過程をたどることを意識させ、考えを深め合える言語活動を計画的に設ける。 ・新出漢字に対して類義語・対義語、意味調べに取り組みせ、語彙力の向上を図る。定期的に漢字テストを実施し、繰り返し学習することによる知識の定着を図る。
社会	○基礎的・基本的な知識や技能を習得したうえで、社会的事象に対し、地図・年表・統計資料等の諸資料を基にした多面的・多角的な見方や考察する力を養う。 ○社会に見られる課題の解決に向けた広い視野からの構想・論理的説明・合意形成や社会参画を視野に入れた議論を行う思考力や表現力、社会の中で汎用的に使用する概念に関わる知識や考えを育成する。 ○学習した知識を基に、学習内容のまとめりごとの問いについて、表現する能力の育成を目指す。	・単元を見通した授業計画を立案する。（単元を貫く発問） ・単元ごとの自己評価及び振り返りを行う機会を設ける。（ルーブリック評価を基にした指導） ・対話的な学びを効果的に行うために、一人ひとりに役割を与え、全員が参加できる協働学習の場面を設ける。 ・複数の資料（地図・年表・統計資料等）を比較・考察する問いに対し、資料を関連付けて社会的背景を考察するなど資料の読み取り方を学習する機会を設ける。 ・授業ごとに問いを設定し、問いに答えることで表現する活動を習慣化できるようにする。 ・単元を通した問いについて、社会的な見方や考えを働かせ、レポートを作成する活動を実施する。
数学	○自ら考えたことを自分の言葉でまとめ、それを説明して周囲と共有することで、課題に対して幅広い視野と知識を用いた様々な解決方法で取り組めることを目指す。 ○語句や定義、定理について深く理解することで数学的な表現を身に付け、事象について論理的に説明できる力を育む	・授業ごとに学習したことを自らの言葉でまとめ、振り返る場面を設定する。 ・発展的な事象や問題に対して、小グループで考える時間と、自分の考えを周囲に伝える時間を合わせて設定する。 ・思考力・判断力の深まりを図るために、基本的な知識や技能の論理的理由をもとにした活用を必要とする課題を設定する。
理科	○観察、実験の基本操作を習得し、実験で得られた結果から考察し、説明しようとする思考力、表現力を養う。 ○基本的な概念や原理を理解し、身のまわりの現象を科学的な視点から探究しようとする力を養う。	・ICT機器を活用した視覚的な教材を使用する。 ・班員との対話を通して、現象に対する疑問をあげ、仮説をたてる。 ・演繹の実験、仮説の立案、帰納法的実験から科学的思考の伸長を促す授業を多く実施する。 ・一人1台の学習用端末を用いた個々の学習活動を通じて、生徒の主体性を伸ばす。
音楽	○音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きで捉える力を養う。 ○自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などと関連付けて考える力を養う。	・生徒が音楽的な見方・考え方を働かせ、他者と協働しながら取り組めるように指導する。 ・思考し、判断し、表現する過程を大切に学習活動として、グループワークや体験などの活動を増やす。
美術	○身のまわりや自然の中から、規則的なパターンや形のユニークさを見付けたり、それらを自らの作品に生かしたりすることができる力を養う。 ○自らの作品に愛着をもち、丁寧な作品作りを心がけ、互いの作品への理解を深めようとする態度を育む。	・身近なものへの観察力を高めるために、クロッキーやスケッチを習慣付けたり、素材を集めたりして、作品制作に臨めるようにする。 ・自分の作品に対する思いを相手に伝えるとともに、互いの作品を鑑賞する機会を増やす。

保健体育	○運動課題の解決に向けて、自ら深く考察したり、他者との対話を通じて自己の思考を深め、互いに助言し合ったりする力を養う。 ○個人や社会生活における災害や疾病、事故等による健康へのリスクに対して、自らの行動や考え方を適切に評価し、よりよく備えることができる力を養う。	・ICT 機器の動画撮影機能の活用によって、自他の運動を客観的に振り返り、課題に自ら気付けるようにする。 ・話し合いの時間を設定し、互いに助言し合う中で、自己の思考をより深められるようにする。 ・授業後に学習カードを記入することによって、学習内容を振り返ることができるようにする。
技術・家庭	○主体的に学び、互いに教え合う態度を育成する。 ○知識や技能の基礎・基本を理解し、目標に向かって、粘り強く取り組む中で、より効果的な方法を見付け出す力を養う。	・普段の生活と密接した内容を扱うことで、興味や関心を持ち、主体的に学習に取り組めるようにする。 ・ICT 機器の活用によって、幅広い知識や生活の課題に気付かせる。 ・教師用タブレット使って、作業手順や道具の使い方・動作を詳しく解説する。 ・ICT 機器を使って、作品の状態を比較、解説することで、具体的な達成水準を明示する。
外国語	○文法の意味・形・用法を理解し、実際のコミュニケーションの場面において活用できる力を育てる。 ○単語や基本文の知識定着を図り、表現の幅を広げられるようにする。	・ペアワークやグループワークを多く取り入れ、相手とのコミュニケーションの中で文法の意味・形・用法を理解できるようにする。 ・単語や基本文の練習を帯活動として取り入れることや、小テストを定期的実施することで、知識の定着を図る。